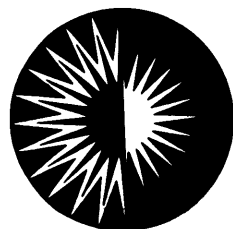




1984年7月 No.22

技術開発ニュース



限りある資源を大切に

企画室における経営計画支援システム

『MIRAI』の概要…… 2

<経営計画策定業務の効率化>

研究紹介

○大電源系統間のループ運用試験…… 4

<電力供給の信頼性確保>

○碍子洗浄ロボットの開発…… 5

<送電線保守業務の能率向上>

○長距離光伝送路を用いた

画像伝送の実証試験…… 6

<光通信回線の有効利用>

○鉄骨トラス骨組の静的加力実験…… 7

<鉄骨トラス骨組の合理的設計>

○B形フォルトロケータ信号のデジタル伝送

インターフェース装置の開発…… 8

<伝送路デジタル化への対応>

○低圧間欠漏電表示器の試作…… 9

<低圧漏電調査業務の効率化>

○亜鉛めっき鋼材の表面黒変現象の検討……10

<設備の健全性診断>

○接触脱リン法の生活排水への適用……11

<排水の富栄養化対策>

○地中送電線シールドトンネルの耐震性評価……12

<地中送電線洞道の信頼性向上>

○ゴム長靴除染装置の開発……13

<原子力発電所の除染作業の省力化>

技術解説

○内蔵式ニードルサーボモータ……14

内外ニュース

○知多エル・エヌ・ジー(株)知多基地

冷熱発電設備運開……15

特許・実用新案登録出願件名一覧表……16

無言の取引

名古屋通商産業局長 宇賀道郎



古代ギリシャの歴史家ヘロドトスの本の中にカルタゴの商人とアフリカの住民との間で行われていた“無言の取引”のことが紹介されている。どんな取引かということ、まずアフリカの海岸についてのカルタゴ人は積荷を海岸に並べると合図の狼煙をあげて、沖の船に帰って待機する。煙をみた住民は海岸へきて商品の代金として黄金を積荷の横に並べてまた奥地へひっこむ。今度はカルタゴ人が上陸してきてそれを調べ、黄金の額が商品の額に釣合うとみれば黄金をとって立去る。不足と思えばそのままにしておいてまた船に戻る。住民が黄金を追加してカルタゴ人が納得するまでこういうことが続く。この間双方とも信義を重んじて決して不正を行わず、カルタゴ人は対価が釣合うまでは黄金に手をつけず、住民もカルタゴ人が黄金をとるまでは商品に手をつけない。売手と買手は口をきくことはおろか、相手の顔をみることもさえない。これが無言の取引である。

さて、電気というのはまことに不思議な商品であってそれ自体が目に見えないばかりでなく、生産即消費であるから日々の供給に当って生産者と消費者が顔を合わせる機会はない。昔は検針員や集金員が各戸を廻っていたが最近ではメーターが戸外に出たり、自動振替が普及してきてそれも少なくなってきた。さらに将来ニューメディアやエレクトロバンキングの技術が進めばひょっとして一生電気屋さんの顔を見ないで過ごしてしまう消費者が出てくるかもしれない。あらゆる企業にとって日々接触する消費者から苦情を承り、これを通じてそのニーズを把握することは極めて重要なことである。消費者との接触がますます少なくなっていく電力会社にとっていかにして消費者の声を日常業務に反映させ、独善におちいることを防いでいくか、これがこれからの大きな課題であろう。